

「集中すること」を楽しむ。
それがビリヤード。

ほかのことなんか考えていたら勝てません。
どう撞いたらどうなるのか。
いかに集中するかがビリヤードの難しさであり楽しさです。

取材／ASJ 静賀正樹 撮影／上田宏 ①のみASJ 川人義彦



球を撞くときは ビリヤードのことだけに 集中する

山本学さんは、自動車好きとして建築家仲間でも有名だ。現在の愛車は「カジバミニモーク」。

もうひとつ、あまり知られていない趣味がある。ポケットビリヤードだ。ビリヤード歴は二〇年を超える。ビリヤードをやるきっかけは、と

いう問いに「大学時代に『ハスラー2』を観て、ポケットビリヤードをやりはじめたんです。それですっかりハマりました」と山本さん。

「ハスラー2」は一九八六年公開の映画。マーティン・スコセッシ監督、ポール・ニューマンとトム・クルーズによるビリヤード映画だ。この映画の公開によって日本では空前のビリヤードブームとなり、全国にポケットビリヤード台を置くブルバが

できた。そんな中で山本さんはビリヤードをはじめたそうです。

最近は忙しく、なかなかビリヤード場に行けないそうだが、多い時には週に三、四日、一回三時間程度を愉しんでいる。

今回撮影をお願いしたビリヤード&ダーツバーは、山本さんの手によるインテリア。さぞや力が入ったことだろうと尋ねると「ははは。超ローコストでして。学生たちを引き連れ

て施工のお手伝いになりました」と山本さん。

店長の中村さんが「山本さんは建築家の中ではトップクラスのプレイヤーじゃないですか」と語る。

「ブレイクショット(ポケットビリヤード競技で、ラックされた的球を崩す最初のショットのこと)から最後までポケットし続けてノーマスで的球を一番まで入れることを『マスワリ(Break Run Out)』と言うんですが、山本さんはちよくちよくマスワリをやりますよ」と中村さんが話している目の前で山本さんがマスワリを成し遂げた。

「トーナメントには出られるんですか?」との問いに「名古屋で行われた全国大会に出場したことがあります。B級の頃は関東地区で準優勝したこともあります。今はA級に昇格したため、なかなか勝たせてはもらえませんね」と語る。

ビリヤード場主催によるトーナメントは三〇人ほどの参加者だが、関東地区レベルのトーナメントになると三〇〇人近い参加者があるという。ビリヤードの魅力とは何だろう。

山本さんは「集中力」だと言う。

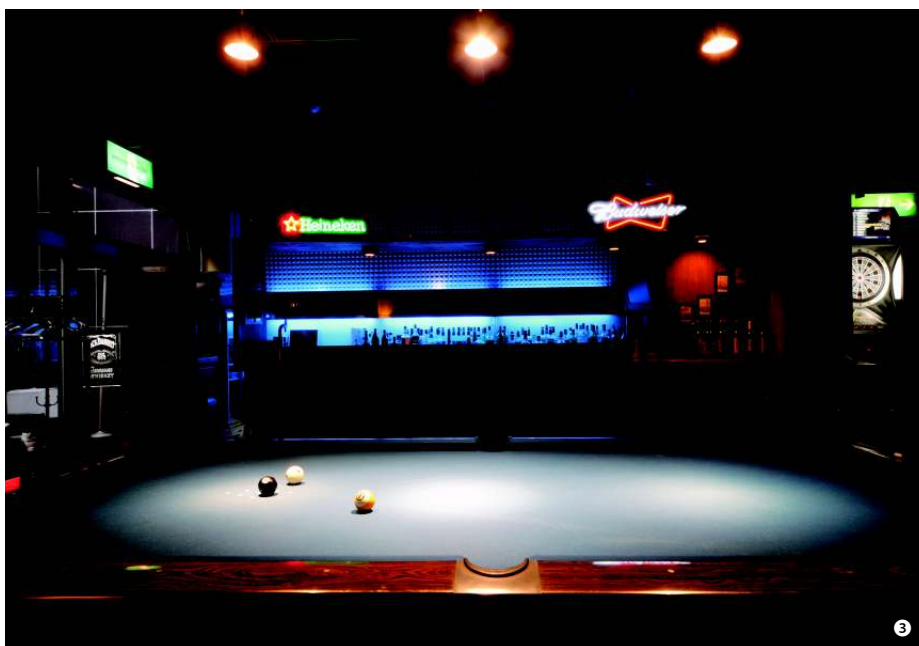
「ビリヤードは撞いた後の手球の位置も計算しておくなくてはなりません。集中力の勝負ですから、ほかのこともなんか考えていたら勝てません。どう当てたらどうなるのか。もしミスしても相手が撞きにくい位置に球が残るようにセーフティを考えるといいことです」との山本さんの言葉に中村さんが「その段取りが仕事にも

生かされていると言っておいたほうがいいんじゃないですか?」とませがえす。

「まあ、段取りを仕事に生かすとはでは言えないけれど、少なくとも『集中することのトレーニングにはなっているんじゃないですか』と山本さんが切り返す。

ブレイクショット用のブレイクキューとブレイクキューをケースにしまいながら、「二〇年以上続けられる趣味って、そうはありませんよね。私にとってビリヤードは完全に『オフ』の状態をつくり出すものなんです。だから続くんでしょね(笑)」と山本さん。

手球を撞くときの眼は、常に何事にも真剣に向き合う眼だった。



- ① 普段はにこやかな山本さんも手球を撞くときの眼は鋭い。
- ② 山本さんが通うビリヤード場のチームウェア。このベストを着て試合に挑む。
- ③ 山本さんがインテリアを設計した東京・日本橋蛸殻町にある「DARTS & BILLIARD OASIS BAR」。
- ④ この日のインタビューの合間に店長の中村さんとのゲームが行われた。
- ⑤ 撞き手を考える。
- ⑥ ビリヤードの魅力語る山本さん。
- ⑦ 愛車のカジバミニモーク。



山本学

(東京都葛飾区)
1966年静岡県生まれ/1988年宇都宮大学工学部建築工学科卒業後、林・山田・中原設計同人に勤務/2001年アトリエガク一級建築士事務所設立/2002年桑沢デザイン研究所講師(〜2005年)/2008年宇都宮大学非常勤講師

